



# 一般社団法人T-NEXT 設立説明会

一般社団法人T-NEXT  
公益財団法人日本卓球協会

# 目次

## 1. S級・A級コーチライセンス制度について

代表理事 倉嶋 洋介

## 2. 卓球ウェルビーイング事業について

特別顧問 林 信貴



# 1. S級・A級コーチライセンス制度について

代表理事 倉嶋 洋介

# ▶ コーチライセンス制度について

「世界と戦える選手を育てる卓球指導者」を中核に、ジュニアから高齢者まで、卓球を通じて日本の未来を支える人材を体系的に育成する。

<日本スポーツ協会の現行制度>



2027年4月  
S級へ置換予定  
※既存制度との  
互換性も考慮

日本卓球協会  
独自資格

## S級

(ターゲット規模：数十名)

国際大会を舞台に競争力を持つ選手を育てる指導者

ナショナルチーム・Tリーグの指導者の必須資格にすることを検討中。

※S級：コーチ3以上の資格保持者が受講可能

## A級

(ターゲット規模：数十名)

国内のトップ選手を育てる指導者

※A級：日本卓球協会独自ライセンス。公認資格保有がなくとも受講可能。

# ▶ コーチライセンス詳細

## S級

- 目的：  
日本代表選手及びトップレベルのチーム、選手の指導ができる人材の養成と、日本卓球界のリーダーとなる人材を養成する。
- 取得ライセンス：  
JTТА公認S級ライセンス（日本スポーツ協会：コーチ4）
- 受講条件：  
日本スポーツ協会公認コーチ3 保有 22歳以上  
S級コーチ養成講習会の前期後期通して全日程の参加できること  
※申込後、2年以内に受講
- 実施方法：  
国内集合講習（前期・後期各10日間）、補習
- 合格条件：  
S級ライセンスは、国内講習の全カリキュラムを受講・修了し、試験に合格したのち、指導者養成委員会およびJTТА理事会での承認を経て認定されます。

## A級

- 目的：  
全国レベルのチーム、プレーヤーの指導ができる人材を養成するとともに、ブロック、都道府県のリーダーとなる人材を養成する。
- 取得ライセンス：  
JTТА公認A級ライセンス（JTТА独自資格）
- 受講条件：  
A級コーチ養成講習会に全日程、参加できること  
※申込後、2年以内に受講
- 実施方法：  
国内集合講習（10日間）、補習
- 合格条件：  
A級ライセンスは、国内講習の全てのカリキュラムを受講・終了し、試験に合格したのち、指導者養成委員会およびJTТА理事会での承認を経て認定されます。

# ▶ S級・A級コーチライセンスの運用に関して

S級・A級コーチライセンスを日本卓球協会からの委託により、制度化する。



2025年9月20日の日本卓球協会理事会で、トップの指導者を育成する「S級・A級コーチライセンス」を作るべく、準備委員会で検討された大筋が承認された。

「S級・A級コーチライセンス」制度の構築と運用のサポートを行う。

「S級・A級コーチライセンス」を活用することで、日本の卓球界の底上げにつなげる。

## ▶ T-NEXTのミッション

### 1 世界で戦える卓球人財の育成

国内外で活躍できる指導者を育成し、未来の卓球界を支える力をつくる。

### 2 卓球を活かした豊かな社会の実現

健康づくりと地域活性の手段として、子供から高齢者まで広く卓球を普及させ、生涯スポーツとして社会へ浸透させる。

### 3 卓球を通じた新たな価値創造

卓球の価値を活かして、様々なステークホルダーとのネットワーク構築を促進し、社会にインパクトをもたらす。

# ▶ S級・A級コーチライセンスの活用の全体像

日本卓球界の競技力、指導力向上への貢献を行う。



## ① ライセンス構築

ライセンス制度設計、カリキュラム  
開発、講師選定等



## ② 人財活用

ライセンス取得者の国内外への派遣  
(Table Tennis Technical Director)

その他、コーチング関連のテクノロジー活用（R&D）や、  
ライセンス取得指導者の社会的地位向上への取り組みも実践して参ります。

## 2. 卓球ウェルビーイング事業について

特別顧問 林 信貴

# 卓球ウェルビーイング事業が目指すもの

T-NEXTのミッション

② 卓球を活かした豊かな社会の実現

×

T-NEXTのミッション

③ 卓球を通じた新たな価値創造

卓球の独自性を活かして、  
世代を超えた笑顔とつながりを創出する生涯スポーツへ。

様々なステークホルダーと共に、  
こころとからだの健康を支える共創型社会インフラへ。

# ▶ 卓球ポテンシャル

## 1 国内スポーツトップクラスの愛好者数

笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」推計：年に一回以上行う人約582万人  
アミューズメント・レジャー層を含めると約800～1000万人（業界関係）

## 2 愛好者に占める高い高齢者比率

笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」による推計：50代以上約40%/60歳以上約30%

## 3 安心・安全

肉体への過度な負荷や怪我・故障が少なく安心してプレイ可能

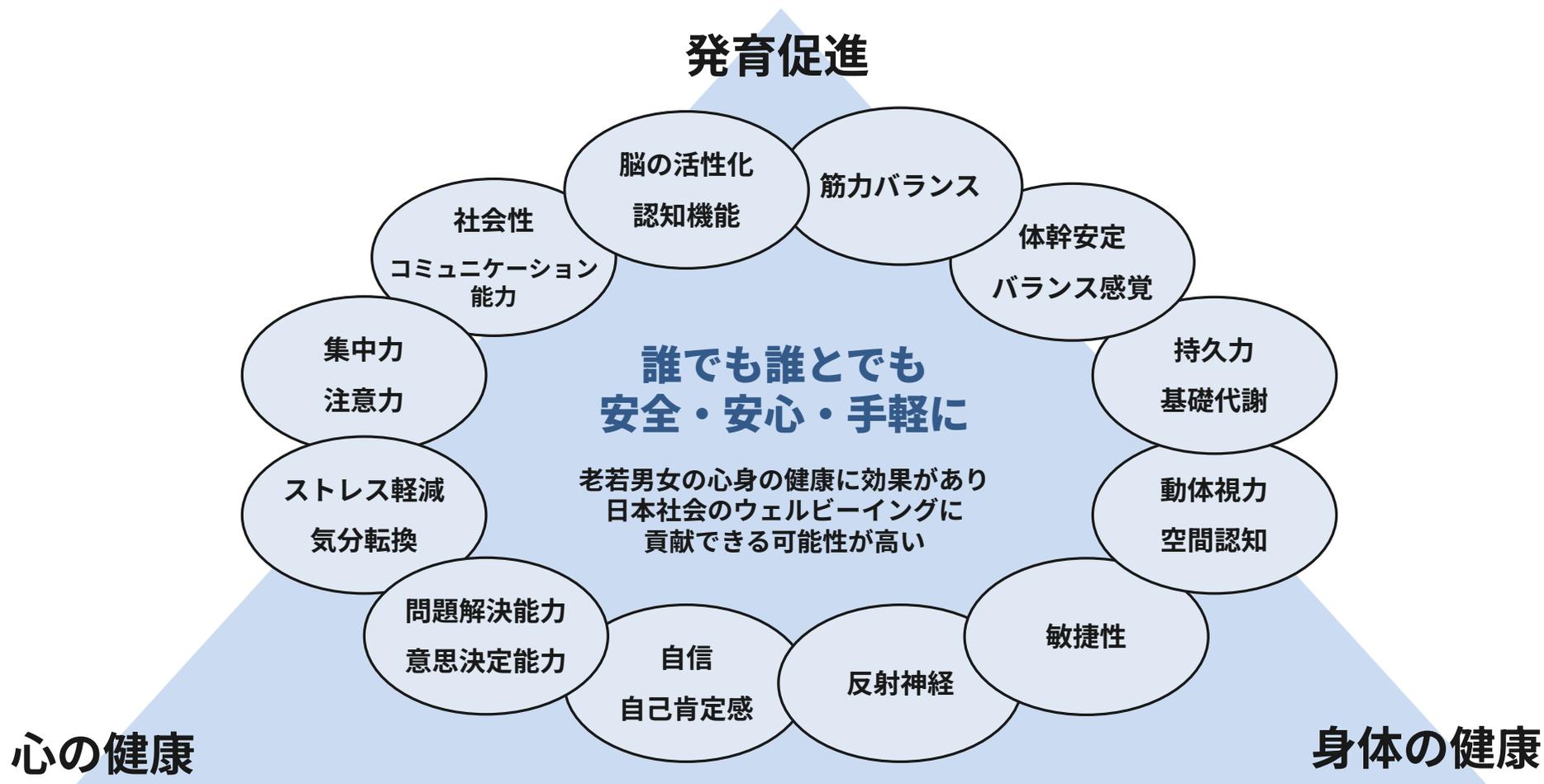
## 4 安定・安価

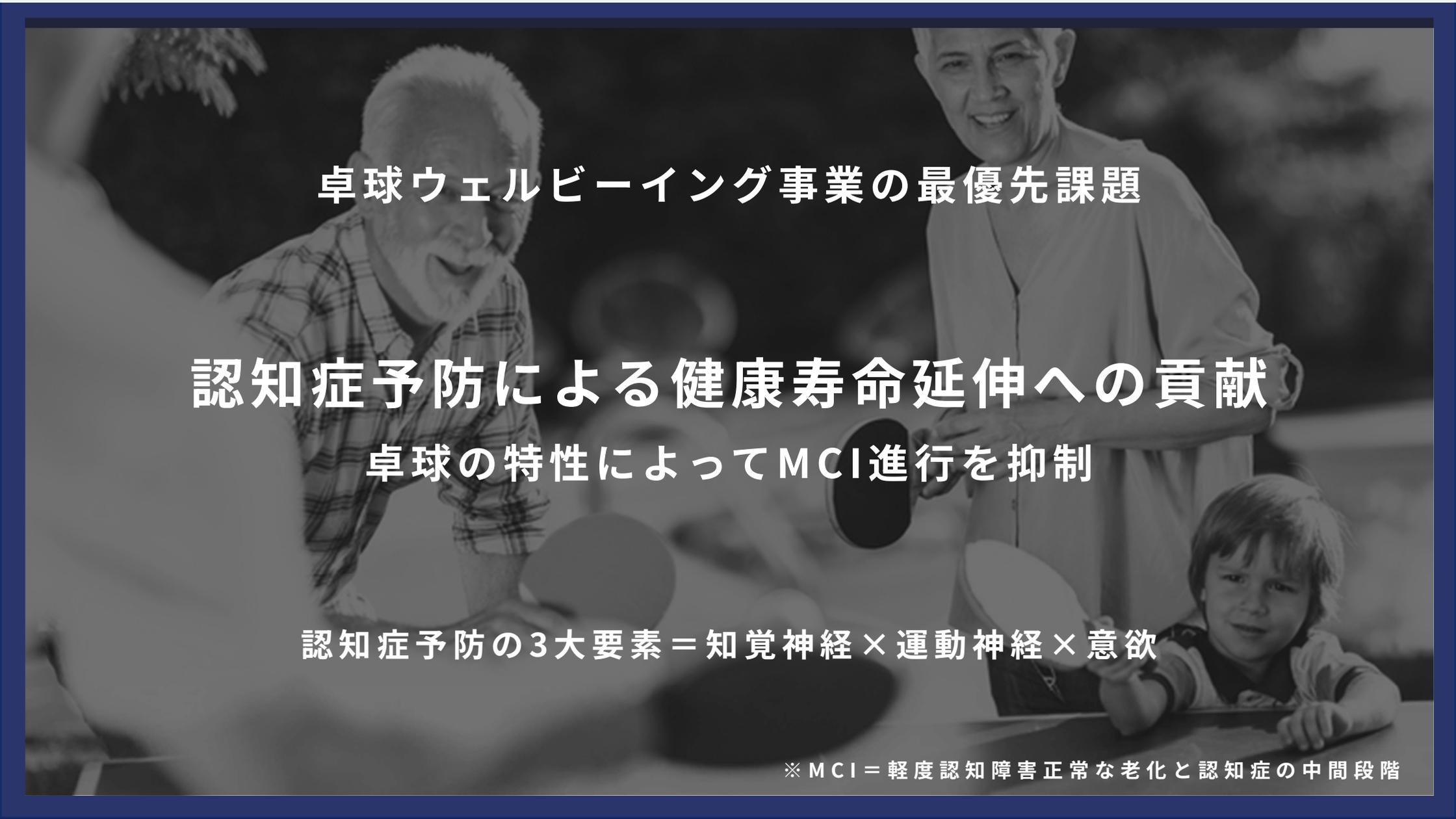
費用面や施設面で手軽かつ一年中安定した室内環境でプレイ可能

## 5 健康メリット

卓球の持つ特性はこころとからだの両面の健康に寄与

# ▶ 卓球の効能（仮説）





卓球ウェルビーイング事業の最優先課題

認知症予防による健康寿命延伸への貢献

卓球の特性によってMCI進行を抑制

認知症予防の3大要素 = 知覚神経 × 運動神経 × 意欲

※ MCI = 軽度認知障害 正常な老化と認知症の中間段階

# ▶ 主要な活動

## 日本人の心身の健康づくりによる社会貢献



### ① R&D

- 卓球のWell-BeingやQOL視点での  
効能エビデンスの確立



### ② グラスルーツ

- グラスルーツ指導者の育成と指導  
環境の整備



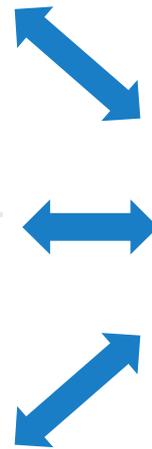
### ③ 社会インフラ実装

- 生涯スポーツとしての普及拡大

### ④ 共創



- 日本社会のウェルビーイング向上を  
ともに目指すパートナーシップを開発
- インパクト投資による企業価値向上を  
実現していく企業様との長期的な価値  
共創パートナーシップによって社会イ  
ンフラ実装を推進



本日はありがとうございました。

---



<問い合わせ先>

一般社団法人T-NEXT 事務局

Email : [office@t-next.or.jp](mailto:office@t-next.or.jp)